

1. 英語版「外国人児童生徒支援のための学校通知文作成ソフトウェア」について

英語版「外国人児童生徒支援のための学校通知文作成ソフトウェア」は、英語ができない学校関係者が、英語で通知文を作成するためのソフトウェアである。本ソフトウェアはマイクロソフト社のエクセル(Excel)を使用して作成したものであり、使用するためにはエクセルが必要である。

本ソフトウェアは「学校通知文例集」「語彙集」「説明書」からなる。本ソフトウェアは全国の学校で対応できるように、使いやすさを重視して、記載事項を基本的なものだけにとどめておいた。複数の県で学校通知文を調査したところ、挨拶文や担当者、また書式などはさまざまであったが、通知する必要事項は非常に限られていることがわかった。その必要事項を抽出したものが基本となっている。使い方は、通知文例集の中から該当する内容（「入学式」「運動会」など）を開き、不必要な項目(行)を削除すれば基本的な部分ができあがる。さらに、個別に入力する日付、場所や付け足したい事項を「語彙集」からコピーして張り付ければ通知文が完成する。日本語の項目を見て作業すれば、英語併記の通知文が完成するという仕組みになっている。

2. 本ソフトウェア作成の経緯

近年、第二言語として日本語 JSL (Japanese as a Second Language) を学ぶ子どもが急増してきている。その結果、学校現場ではコミュニケーションの手段である日本語ができず、文化的背景も異なる児童生徒の就学という事態に直面することとなった。日本語学校は基礎的な日本語教育を目的としており、学校教育は教科教育を中心とする学力向上を目的としている。JSL 児童に対しては、日本語教育と教科教育の両方に対応しなければならない。学校教育の現場では日本語教育の経験がない学校教師が、その対応を行っている現状がある。

さらに、未成年を対象としている学校教育では、保護者とのコミュニケーションが不可欠である。JSL 児童生徒は学校で日本語を学習できるが、その保護者は日本語学習に状況的に恵まれていないことが多いため、日本語では簡単なコミュニケーションしかできない話者たちも多い。通知文レベルの日本語表記を読めない保護者はさらに多い。遠足、運動会、家庭訪問、授業参観などの行事に関しては、保護者の同意や協力が必要である。しかし、日本語で通知文を書いても理解することは難しい。それでは保護者の母語で書けばよいのだが、外国語に精通している学校教員はほとんどいない。八方塞がりの状態である。

都留文科大学の早野慎吾を代表とする研究グループでは、2004 年度から外国人児童生徒の実態調査を行ってきた。特に栃木県および宮崎県を重点的に調査してきているのだが、JSL 児童生徒を受け持っている教員の多くが学校通知文作成に困惑していた。特に外国人児童が少人数しかいない学校では、通訳をつけることができず、すべてを担当教員が抱え込んでいるという状況にある。この現況を解決するために作成したのが、本ソフトウェアである。

外国人児童生徒多数地域では、通訳が保護者の母語に翻訳した通知文を作成している例が多い。たとえば、栃木県真岡市教育委員会が作成した「真岡市日本語教室通知文例集」。これに記載されている通知文は、日本語表記の下部に外国語訳（ポルトガル語・スペイン語・英語）が記載されている。日本語表記を通訳が外国語に翻訳したのである。その通知文は日本語と外国語が併記されているために、担当教員と外国語話者（保護者）のどちらも内容が理解できるという利点がある。いろいろと調べてみると、外国人児童生徒の多い地域では、同じような通知文例集を作って対応していることがわかった。このような通知文の最大の欠点は、翻訳者が必要ということである。真岡市は、外国人児童生徒が 200 人を超える外国人児童生徒多人数地域で、ポルトガル語・スペイン語に精通した通訳がいる。そのため、各学校にあった外国語・日本語併記の通知文作成が可能となる。

問題は、通訳がない少人数地域および少人数校である。在籍数でいうと 5 人未満の学校が全体の約 80% (5,877 校のうち、4,601 校) を占めており、在籍数別市町村数でも全体の約半数 (851 市町村のうち、424 市町村) が 5 人未満となっている (文部科学省調査 2007 年 9 月 1 日現在)。そのような少人数地域および少人数校では、通訳を雇っていない場合も多く、雇っていてもネイティブスピーカーというだけで、逆に日本語に難のある場合もある。JSL 児童の通訳として雇ったが、1 年も経たずに通訳よりも児童の日本語力の方が上になったという例もある。少人数地域では、適切な通訳を雇うのも困難な状況にある。

通知文を作成するための文献もあり、また外国語訳された通知文をホームページに掲載している例もある。しかし、知識のない外国語を入力するだけでも大変で、実際に通知文を作成しようとしてもできない場合が多い。本ソフトウェアは、通訳がおらず、さらに英語の知識がない学校関係者を想定して作成している。複雑な内容には対応できないが、基本的な通知文に関しては、短時間で作成できるように考慮している。

3. 本ソフトウェア作成者について

本ソフトウェアは、早野慎吾を代表とする研究グループが作成したものである。全体の総括および構成は早野慎吾が行った。基礎的項目のデータ入力为中心的に活動したのは小田原恵美子である。ポルトガル語版は川添桃、中国語版は劉薇、英語版はデボラ オチが中心で対応している。ポルトガル語版に関しては MARTORELLI 夫妻に協力頂いた。各学校の実態調査には、上記メンバーの他、松井洋子、田中利砂子、佐藤和之、宮田好恵が参加している。

本ソフトウェアの著作権は早野慎吾および立川日本語・日本語教育研究所が有する。外国人児童生徒の支援目的であれば、誰でも無料で使用できる。

早 野 慎 吾(都留文科大学 教授)

【参考文献】

暁教育図書編(1992)『毎日の教育活動のための挨拶・書式全書』ぜんきょうプラクティカ
田所清克・伊藤奈希砂監修(2003)『新・教育現場のポルトガル(ブラジル語)』国際語学社
文部省(1995)『ようこそ日本の学校へ』ぎょうせい

【参考にしたホームページ】

岩倉市日本語適応指導教室 「学校行事翻訳文書」

<http://www.iwakura.ed.jp/nihongo/frame.htm>

大阪府教育委員会 「帰国・渡日児童生徒 学校生活サポート情報」

<http://www.pref.osaka.jp/kyoisityoson/jidoshien/shugaku/>

可見市教育委員会 「翻訳資料リスト」

<http://www.city.kani.gifu.jp/gakushuu/honyaku/>

小牧市外国人児童生徒教育連絡協議会 「小牧市外国人児童生徒教育連絡協議会翻訳文書」

<http://www.komaki-aic.ed.jp/gaikoku/index.htm>

千葉県国際交流センター「学校からのおたより」

<http://www.mcic.or.jp/otayori/index.htm>

豊橋市教育委員会 「外国人児童生徒教育資料」

<http://www.gaikoku.toyohashi.ed.jp/index.htm>

浜松市教育委員会 「外国人児童生徒関係書類」

<http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/shikyoi/foreign/data-foreign.htm>

兵庫県教育委員会 「学校生活ガイド」

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/schoollife/index.html>

三重県教育委員会 「保護者への連絡文書例」

<http://www.pref.mie.jp/TOPICS/2005060217.htm>

宮城県国際交流協会 外国籍の子供サポートセンター

<http://www.h5.dion.ne.jp/~mia/kodomosupo.html>

【付記】 通知文収集において真岡市教育委員会、宮崎市教育委員会の方々にはいろいろと便宜をはかって頂いた。特に佐藤務氏(真岡市教育長)、石河雅規氏(真岡市教育主事)には、いろいろとお世話になった。記して感謝申し上げる。

本ソフトウェアに関するご意見、ご要望は以下のところまでご連絡ください。

〒190-0012 東京都立川市曙町 3-4-20

立川日本語・日本語教育研究所研究会内 立川言語文化研究所事務局

Tel 5131042-848-(代表)

E-mail tachikawa-nihongo@outlook.jp

1. 通知文例集・語彙集の使い方

* 文例集のファイルと語彙集のファイルがあります。

英語中心の通知文を作成する時は文例集ファイル、日本語で作成されたものに英語を加える時は語彙集のファイルを使います。

文例集の使い方

- 通知文例集の各シートには **XX** で記されている部分に必要な事項を入力する。
日付・曜日・学校名・校長名・行き先等、それぞれのセルをクリックして入力する。
- 必要でないものは行ごと削除する。
* は二者択一（遠足・集金）。不要な方を必ず削除する。
- 印刷する。
罫線印刷は“なし”で設定。

英語では
月/ 日/ 年の順番で表記
例. 2008 年 5 月 1 日は
5/1/ 2008 と入力

曜日は、語彙集
カレンダー欄を
参照

* は選択
どちらか
を削除

必要ない
ものは、
行ごと
削除する

					月	日	年	
					5/	1/	2008	
			学校名 School name	Miyazaki-syogakko				
			校長 Principal's name	Miyazaki Ichiro				
		保護者各位						
		Responsible Party (e.g., parent/guardian)						
			遠足の実施について(お知らせ)					
			Field Trip Notice					
					月	日	曜日	
1	期日	Date			5/	20	(Friday)	
			* 雨天決行	Will go even if it rains				
			* 雨天中止	Will cancel if it rains				
2	行き先(方面)	destination		PHENIX DOUBUTUEN				
3	日程	Timetable	学校集合	Meet at school	8:20			
			学校出発	Departure	9:00			
			学校着	Return to school	15:00			
			解散	Time to disperse	15:20			
4	費用	Fee		¥ 1,500				
			交通費	Transportation				
			入場料	Entrance fees				
			その他(Others				
			集金日: 5 月 10 日	Payment due date	5/10			

語彙集の使い方

時間割・通知文などの日本語の上に、語彙集を参照し英語を書き加える。

曜	月	火	水	木	金
日	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8
行事	<i>all-school assembly</i> 全校朝会（朝礼）	<i>Payments</i> 集金	<i>Fieldtrip</i> 遠足		<i>Ending ceremony</i> 終業式
1	<i>Japanese language</i> 国語	<i>music</i> 音楽		<i>Japanese language</i> 国語	<i>mathematics</i> 算数
2	<i>science</i> 理科	<i>shop/construction class</i> 図画工作	遠	<i>Japanese language</i> 国語	<i>general studies</i> 総合学習
3	<i>physical education</i> 体育	<i>shop/construction class</i> 図画工作		<i>physical education</i> 体育	<i>music</i> 音楽
4	<i>mathematics</i> 算数	<i>general studies</i> 総合学習	足	<i>social studies</i> 社会	<i>Ending ceremony</i> 終業式
給食	<i>mealtime</i> ○	○	×	○	○
5	<i>social studies</i> 社会	<i>calligraphy</i> 書写		<i>Mathematics</i> 算数	<i>class meeting</i> 学級活動
6				<i>club activities</i> クラブ活動	
準備物	<i>lunch service uniform</i> 給食着 <i>mask</i> マスク <i>toothbrush</i> 歯ブラシ <i>cup</i> コップ	<i>recorder flute</i> リコーダー <i>scissors</i> はさみ <i>glue</i> のり <i>painting set</i> 絵の具	<i>packed lunch</i> 弁当 <i>bottle of water</i> すいとう <i>snack</i> おやつ <i>sit-upon</i> しきもの	<i>swimwear</i> 水着 クラブの用意	<i>recorder flute</i> リコーダー

summer vacation

もうすぐ夏休み

month day month day summer vacation

7月19日から8月31日まで夏休みです。

夏休みの生活の決まりをよく守って、健康で楽しい毎日を過ごしましょう。

School day month day month day

登校日は 8月1日（金）と8月21日（木）です。

things to bring shoes for inside school pencil case

《持ってくるもの》 上靴・筆箱

Payment

7月の集金のお願い

Fieldtrip transportation fee

遠足バス代 ￥1,500

Class fee

+ 学級費 ￥300

total

合計 ￥1,800